

## 平成30年度「教育活動評価」結果の考察

### 1 学校運営について

#### (1) 調理科

- 学校全体と比較して似たような割合の数値で、一見して平均的な回答に感じられるが、生徒からの評価は総じて数ポイント低い傾向にある。その一方で保護者の評価は概ね高いので、期待を裏切らないようにしたい。
- 問題点として「⑤いじめ、暴力の根絶について」を挙げたい。アンケート調査や、日々の面談などを通してクラス担任を中心に状況の把握に努めているが、それが評価に現れていなかった。友人関係の悩みを抱える生徒がおり、調理科の教職員全体で迅速かつ誠実な姿勢での対応を意識していきたい。

#### (2) 介護福祉科

- ほとんどの項目で生徒・保護者とも7～8割に達しているが、いじめ・暴力の根絶については保護者が42%、相談・助言については生徒が58%とやや低い結果となった。このことから、保護者は自分の子どもの学校生活についてやや心配していること、生徒は相談したいことがあっても相談できない状況があると思われる。

#### (3) 普通科・情報表現コース

- 気になるのは③学習環境の整備の項目についてだろう。  
半数以上の生徒が否定的な回答をしている。理由として考えられるのは、PC室の設備や教室でのネットワークの未整備が原因であろう。情報教育を展開していく上では不十分な部分があるが、新校舎での最新の設備を期待したい。
- ⑦学校への満足度が平均値より肯定的な回答が多いのは救いであろう。各教科の担当の先生方の創意・工夫のお陰であると感じる。

#### (4) 普通科・デザインアートコース

- 全体のデータとほぼ同程度なので、学校への理解・満足度については平均的といえる。

#### (5) 普通科・総合コース

- 全体的に「当てはまる」「少し当てはまる」という回答が60%を超えており、本校及び本コースの取り組みにご理解を示していただいていると考えている。特に回答⑥「相談・助言」の保護者回答80%については、日々の担任と保護者の連絡・連携が取れている事がうかがえ、更に向上に努めていきたい。

#### (6) 普通科・健康スポーツコース

- 学校運営全般、生徒・保護者共に満足していたと感じた。
- 相談・助言の項目では、生徒の満足度が低かった。部活動での悩みなどを相談できる環境を作っていく必要があるのではないかと感じた。
- 保護者の「学校への満足度」が高い。生徒も同じように満足してもらえるような取り組みをしていきたい。

## (7) 募集事業部

- ② 「学校の通信便り」について、生徒は学校からの情報をより多く求めているようだ。募集業務部としては対外的な情報発信を念頭に置き、「明成通信」の発行やホームページの更新を行っているが、校内に向けても紙媒体での全体配布を行うことで生徒のニーズに対応する。

## (8) 教務部

- 学校スローガン「実学ひとすじ・好きを未来につなげよう」を意識していない生徒が多いことが結果に影響していると思われる。「実学ひとすじ」とは具体的にどのようなことかについて、教員間でも整理し、生徒に伝えることが必要であると思われる。
- 学校への満足度を上げるためには、学校が「学習・成長の場」であるという認識を生徒に持たせ、実感できるように実践していくことが重要である。

## (9) 進路指導部

- 学習環境や相談・助言の項目が大きく関係すると思うが、生徒と保護者が満足と感じている差が大きいのが気になった。この差が生徒・保護者ともに高い割合で同程度になるように工夫をしていきたい。

## (10) 生徒指導部

- 「⑤いじめ・暴力の根絶」について、生徒の8割が肯定的であるが、保護者は6割弱と低い。保護者への「いじめ」防止活動取り組みを発信する必要がある。また、生徒の肯定的理解を更に高まるような活動を行ってきたい。

## (11) 総務部

- アンケート結果より

生徒 → 60%の生徒が「A当てはまる」「B少し当てはまる」と答えていた。

22%の生徒が「Cあまり当てはまらない」と答えていた。

15%の生徒が「D当てはまらない」「Eわからない」と答えていた。

保護者 → 73%の保護者が「A当てはまる」「B少し当てはまる」と答えていた。

10%の保護者が「Cあまり当てはまらない」と答えていた。

17%の保護者が「D当てはまらない」「Eわからない」と答えていた。

教職員 → 92%の教職員が「A当てはまる」「B少し当てはまる」と答えていた。

8%の教職員が「Cあまり当てはまらない」と答えていた。

0%の教職員が「D当てはまらない」「Eわからない」と答えていた。



教職員の意識が毎年高くなっている。 今回、D・Eの回答が0%となった。

生徒および保護者に関しては、昨年度とほぼ同様の回答となっている。



個人やご家庭または地域など災害に対する意識や備えの再確認を毎年行うことが必要と感じる。

## (12) 保健厚生係

### ③ 学習環境の整備について

生徒全体では、60%が「当てはまる」「少し当てはまる」と回答し、昨年度比で約10%上回っている。うち、介護福祉科が75%と全体平均を大きく上回っている。生徒については、学習環境のうち清掃面のみではなく、施設面での評価も含まれ、科・コース等による意識の差もあると思われる。

保護者全体については、73%が「当てはまる」「少し当てはまる」と回答し昨年度比で3%上回っている。職員は、77%である。

### ⑤ いじめ・暴力の根絶について

生徒全体では、81%が「当てはまる」「少し当てはまる」と回答し昨年度比で3%上回っている。介護福祉科と健康スポーツコースが10%ほど全体を上回っている。

保護者全体では、60%が「当てはまる」「少し当てはまる」と回答し生徒の回答を大きく下回っている。この傾向は数年同じである。

教員は89%が肯定的な回答をしており、いじめ・暴力に対して毅然とした対応をしていることがうかがえる。

### ⑥ 相談・助言について

生徒全体では、51%が「当てはまる」「少し当てはまる」と回答し昨年度比で2%上回っている。友人や保護者との相談・助言が多いのではないかと推測する。

保護者全体については、73%が「当てはまる」「少し当てはまる」と回答しており、昨年度比で7%減少している。スクールカウンセリングの延べ件数についても、昨年度が生徒148件、保護者3件に対し、今年度は生徒63件、保護者3件と減少している。

教員は、89%が「当てはまる」「少し当てはまる」と回答しており、目と手をかけて生徒と接している様子がわかる。

## (13) 事務部

## 2 四つの重点目標について

### (1) 調理科

○ 専門領域に積極的に取り組み、家庭でも調理の練習や腕前を披露するなどの機会があるので、⑪～⑬について保護者の評価が特に高い。生徒も検定には意欲的に挑戦しているため、自信につながっているようだ。

○ 専門領域には力を入れているが、その反動か⑧～⑩の生徒の評価は平均を大きく下回っている。日々の学習の積み重ねを意識させる工夫が必要である。

○ 生活面において注意を受ける生徒は、遅刻や身だしなみ等が改善できていないとの自覚はしているものの、改善できない生徒がいる。引き続き生活マナー向上を呼びかけたい。

## (2) 介護福祉科

- キャリア教育，進路指導において，生徒の満足度がやや低い。生徒の興味関心に対しての早い段階からの指導が必要である。主体的・能動的な活動については，生徒と保護者の間に差が見られる。保護者は介護福祉科の活動に理解を示しているが，生徒からすれば，「やらされている感」があるものと思われる。

## (3) 普通科・情報表現コース

- ⑬ キャリア教育，⑭進路指導共に否定的な回答が多かった。

生徒の進路に対する意欲が高まらないことと教員の指導方法にもさらなる工夫が必要である。情報表現コースに入学してくる生徒達に聞き取りをすると，「ゲームが好き」，「動画作成がしてみたい」との意見が多い。しかし，実際にそれを将来の自分につなげてイメージしているかという現実との乖離がみられる。「好きを未来」という部分では，好きで終わらないように先の道を明確に意識させていく必要がある。

- ⑧ わかりやすい授業への肯定的な回答や，⑫検定・資格取得についての意識の高さをポジティブに捉え，その中から将来を意識させていく必要があるだろう。

## (4) 普通科・デザインアートコース

- ⑧ わかりやすい授業内容(生徒)」「⑯生活マナー向上(保護者)」がやや低く，「⑪主体的・能動的な学習(生徒)」「⑫検定・資格取得(生徒，保護者)」がやや高かった。生徒の実態，コースの特性に沿った結果と言える。

## (5) 普通科・総合コース

- 総合コースの特色の一つである検定・資格取得について，保護者の「当てはまる」「少し当てはまる」の回答と生徒の回答の差が大きく，今後分析と対策が必要と考える。

## (6) 普通科・健康スポーツコース

- 授業や学習に対しての取組が自主的にできていない生徒が多いと感じた。
- コースで自主学習ノートを取組をしているが，自主的ではなく強制的になっているのかもしれない。来年度，学習に対しての取り組み方をもう一度確認したい。
- 部活動が優先され，検定合格や資格取得ができない生徒がいる。部活動顧問の協力が必要となるが，今後手立てを考えていきたい。
- 進路指導では，総合的な学習の時間を使用しキャリア教育を行っているが，何に繋がっているのか分からず取り組んでいるのではないかと感じた。「なぜ行うのか」をもう一度確認しながら取り組ませたい。
- 学校内の生活についての質問全般，高評価だった。このまま意識を高く持たせながら学校生活を送らせたい。

## (7) 募集事業部

## (8) 教務部

- 授業に関連する項目の生徒満足度が低いことが大きな課題である。特に「わかりやすい授業内容」の項目が低く、「わからなかった」という印象をもって授業を終えている生徒がとても多いということになる。そもそも「何がわからないのか」がわかっていない生徒も多くいるものと思われるため、毎授業で「本時のねらい」を意識させ、授業終了時に振り返り・整理を行わせるなどの仕組みを整えたい。

## (9) 進路指導部

- 進路指導や主体的・能動的な学習の項目で生徒からあまり良い回答を得られていないので大きな課題である。相当数の集会や説明会を実施しているが、量より質の向上が必要と思われると考える。

## (10) 生徒指導部

「⑮無遅刻・定時着席」, 「⑯生活マナー向上」, 「⑰校内ルール」について、生徒の達成度は何れも8割弱と概ねできているが、反面2割強の生徒が出来ていないことになり不十分であると考え。担任だけではなく全教職員あげて、家庭の協力を頂きながら9割以上を目指したい。

「⑱部活動の活発化」, 「㉑部活動の環境整備」の達成度は6割強である。運動部は大会など対外的に多く活動しているが、文化部はコンクールに出る団体は多くない。文化部の校外で活動する機会を増やしたいと考える。

## (11) 総務部

## (12) 保健厚生係

## (13) 事務部

## 3 学校諸活動について

### (1) 調理科

- コース行事に関する保護者の評価が高い。授業参観や修学旅行、PTA 研修等で調理の時間に触れていることが評価につながっているのだろう。
- 全体としてあまり積極的に関わっている数値ではないが、生徒会本部役員をはじめ行事の中心となって働いており、ボランティアなどで熱心に活動している生徒も多い。裾野を広げて参加者を増やし、有意義に学校生活を送らせたい。

### (2) 介護福祉科

- 生徒も保護者もあまり大きな差はなく、学校諸活動は頑張っているという評価である。

### (3) 普通科・情報表現コース

- どの項目も、否定的な回答が多かった。
- デジタル化した発想の生徒が多いためか、自分が関係ないと判断したものに対しては全く向き合わないという傾向が見られる。協調性や他を思いやる心を育てられるようなアプローチを積極的に行っていく必要があると感じた。

#### (4) 普通科・デザインアートコース

- 「⑳HR・生徒会・委員会活動の活発化(保護者)」 「㉑学園祭・体育祭など(生徒, 保護者)」がやや高く, 特に「㉒コース行事・修学旅行(生徒)」が非常に高かった。ファッションショーを始めとするコース行事への取り組みの成果が現れた結果といえる。

#### (5) 普通科・総合コース

- 行事を大切にしている本コースの取り組みに対して, 生徒・保護者とも回答㉑㉒は高い満足度になっていることがうかがえるので, 更に向上に努めていきたい。

#### (6) 普通科・健康スポーツコース

- 学校行事では, 修学旅行や学園祭, 体育祭など生徒達は積極的に参加している様子があった。今後もどの場面でも活躍できるようにさせたい。
- ボランティア活動については, 各部活動などに任せているところがある。コースとして地域でのボランティアや部活動単位での出前部活動などを行いたいと考えている。

#### (7) 募集事業部

#### (8) 教務部

#### (9) 進路指導部

- 漫然と日々を過ごすのではなく, 高校生活で頑張ったことを, より多く答えられるようにすることが進路決定に役立つことを今まで以上に伝えていきたい。

#### (10) 生徒指導部

- ㉑ 学園祭については, ステージ発表は文化部が中心に, 展示・模擬店はクラス単位が中心になり盛大に実施できた。ただ, 中学校の文化祭と日程が重なり来場者が前年より減少したことが残念である。体育祭については, 事前準備を十分に行い, 関係各方面の協力があり大きな事故なく無事終えた。来年も生徒の意見を積極的に取り入れ, 一体となって取り組める行事にしたい。
- ㉒ ボランティア活動参加について, 肯定的な回答が年々落ち込んで来ている。東日本大震災の防災意識が薄らいでいると思われる。例年5月開催の岩沼植樹祭が本年度は規模を縮小したことから参加できなかった。本年度の主な活動は災害募金活動3回と10月仙台大にて行われた「東北こども博」運営ボランティアがあげられる。ボランティア活動を通じて奉仕の心を育みたい。

#### (11) 総務部

#### (12) 保健厚生係

#### (13) 事務部

### 4 高大連携について

#### (1) 調理科

- 仙台大学へ授業で行くことがないので, 施設利用という点では低い評価となった。
- 運動栄養学科を中心に, 仙台大学への進学を希望する生徒がいる。卒業生から話を聞く機会を設けて, 進路を考える一助となるようにしたい。

## (2) 介護福祉科

- 生徒、保護者ともに満足度は低い。(仙台大学の)健康福祉学科については、高校で学んでいる内容と同じであり、単位の読み替えができないため、メリットを感じる生徒が少ない。そういったことから、生徒の関心が低くなっていると考えられる。

## (3) 普通科・情報表現コース

- 高大連携事業に直接関わる生徒以外は全く仙台大学への意識がない。ましてや進路先としての仙台大学をイメージしている生徒はほとんどいないのが現状である。高校からの働きかけだけでなく、本当の意味での高大連携のあり方を検討していく必要がある。

## (4) 普通科・デザインアートコース

- 全体的に低い結果となっている。コースの特性上直接的な連携が取りにくいこともあるが、より積極的に連携していくよう工夫していきたい。

## (5) 普通科・総合コース

## (6) 普通科・健康スポーツコース

- 大学の施設利用は、距離や時間の問題で授業内での使用が非常に困難な状況がある。大学の素晴らしい施設を使用し、授業などが行えるとより良い成長に繋がれると考えている。
- 近くて遠い大学が仙台大学の位置づけだと思う。姉妹校ではあるが、大学との関係が薄い。もっと連携を取りながら授業などを行えると生徒達は仙台大学にもっと興味関心を持つと思う。

## (7) 募集事業部

- ②⑤ 「大学情報の活用」について、仙台大の情報が不足していることは生徒、保護者だけでなく教員も感じている。仙台大との関りはいくつかの部署であるものの、それを周知、活用する仕組みができていないことが原因の一つであろう。附属高校化が現実となった今まずは教員が情報を共有することが必要である。

## (8) 教務部

## (9) 進路指導部

- 健康スポーツコースの状況でも良い回答は半分以下の状況を鑑みると、学校全体では更に低い数字になると思われる。本校の生徒が進学先の候補として仙台大学を選ぶようになるためには、仙台大学も明成高校側にアプローチするようにはどうか。

## (10) 生徒指導部

- 4月開催「新入生研修」では仙台大教員と学生にレクリエーション指導をしていただいた。新入生には大変好評で新しい仲間作りに大きな一助となった。1年次から進路の一つに仙台大があがる絶好の機会でもあると考える。
- 10月、仙台大での開催「東北こども博」では2日間にわたり32名の参加があった。大学生とともに出店ブースのお手伝いや子供の世話など多くのことを学んでいた。

- (11) 総務部
- (12) 保健厚生係
- (13) 事務部

## 5 家庭生活について

### (1) 調理科

- 自分で課題を見つけて学ぶことは理想だが、家庭学習の習慣づけは与えられた課題をこなすことから始めると良い。
- 9割近くの保護者が「基本的な生活習慣が身につけている」と考えているのは喜ばしいことだが、遅刻の常習となっている生徒もおり、面談などを通じて改善を図りたい。

### (2) 介護福祉科

- 多くの生徒は、家庭学習よりも放課後、学校で勉強したほうがよいと考えているため、家庭学習時間は少ないと考えている生徒が多い。しかし、国家試験に向けた学習は自宅でも行っており、その様子を保護者が見ているものと思われ、保護者の評価の方が高くなっている。

### (3) 普通科・情報表現コース

- 家庭学習については科・コースというよりは学校全体の問題と捉えた方が良い。家庭でやらないのであれば、学校にいる間にいかに学びを深められるかを考えてみてもよいのではないだろうか。

### (4) 普通科・デザインアートコース

- 「㉔家庭学習の習慣(保護者)」がやや高い。保護者の視点からは、他と比べて家庭学習がなされているといえる。

### (5) 普通科・総合コース

- 回答㉔については、全体平均と共に低い回答を示しており、各教科との連携をして対応していきたいと考える。回答㉕については、保護者の「当てはまる」「少し当てはまる」の回答は高いので、更に向上に努めていきたい。

### (6) 普通科・健康スポーツコース

- 家庭学習の習慣では、生徒のあまり当てはまらないという回答が多かった。コースで自主学習の取り組みを行っているが定着していないことがこの結果でわかった。どのように進めていけばよいのか工夫が必要だと感じた。
- 基本的な生活習慣では、ほとんどの生徒がしっかりと行っていると感じている。このまま継続させていきたい。しかし、ごく一部分の生徒の遅刻や欠席が多いと感じる。新年度を迎える前に面接などを行い改善させたい。

### (7) 募集事業部



## (8) 教務部

- 生徒は家庭学習の習慣がないことを自覚している一方で、基本的な生活習慣についてはある程度できているという自己評価をしていることになる。家庭学習をする必要性がなければ、習慣がつかないことは明白であるため、家庭学習をする仕組みづくりが重要である。教科と連携し、「ミニテスト月間」など、学習機会を創出したい。

## (9) 進路指導部

- 生徒・保護者ともに、家庭で勉強しないという回答が非常に多く残念であるが、学校側に厳しさが欠けている部分もあると考える。手と目をかけるのは当然だが、一步間違えれば、それは甘やかす可能性があり、さじ加減が難しい。

## (10) 生徒指導部

- ㊦ 基本的な生活習慣」は肯定的とらえている生徒は多いが、3割は否定的評価をしている。否定的な理由の一つにSNSの夜遅くまでの利用も考えられる。家庭での利用ルールを設け規則正しい生活を送ることを働きかけたい。

## (11) 総務部

## (12) 保健厚生係

## (13) 事務部

# 6 その他

## (1) 調理科

- 自由記述において、各学年で授業に集中できないとの記述があった。私自身は1年生の授業を担当しているが、集団での学習に慣れておらず、幼さも残っており授業に集中できない生徒がいる。各教科の様子をうかがいながら、適切な指導をしていきたい。
- 教員の心遣いや、きめ細かい指導に感謝をされる記述がある一方で、配慮不足など不満も寄せられていた。教員は相談・助言の項目で「きちんと取り組んでいる」と思っている(89%)、生徒がそう感じていない(全体51%・調理科49%)ことが数字でも出ている。生徒の求めていることを察知して、教員の声かけや指導が一方通行にならないようにしたい。

## (2) 介護福祉科

- 保護者、生徒ともに自由記述への回答がほとんどないため、双方の本音が見えないが、生徒も保護者も科で取り組んでいることについては、概ねよい評価を持っていると思う。保護者の方々が学校へ足を運んでくれるような行事について、検討していきたい。

## (3) 普通科・情報表現コース

- 学校評価という観点で考察を行うのであれば、アンケート調査の視点に違いがあるのは改善すべきだと考える。

(4) 普通科・デザインアートコース

(5) 普通科・総合コース

(6) 普通科・健康スポーツコース

- 奨学生を多く抱えるコースとして、学校全体を引っ張っていく位置付けにあると考えている。生徒にもその自覚を持たせることが必要だと考えている。
- 部活動の悩みでつまづく生徒がやはり 1 年生が多い。生徒の進路変更に繋がると感じている。奨学生で入学してくる生徒以外の部活動体験の実施が必要ではないかと考えている。

(7) 募集事業部

(8) 教務部

(9) 進路指導部

(10) 生徒指導部

(11) 総務部

(12) 保健厚生係

(13) 事務部

- 通学バスへの要望について

部活動の朝練習前や練習後に乗れる学バスがほしいという要望が数件あった。

平成30年度から学校と最寄りの地下鉄駅(旭が丘, 八乙女, 泉中央)を無料で、朝夕各2便(部活にも対応できる時間)運行している。しかし、現状はまだまだ余席が十分あるような状況であり、これらを大いに活用できるよう各顧問は指導して貰いたい。

ただし、コース毎に部活動に対応した学園バスを出すことは学校経営上難しいと考える。

なお、運転業務に当たる職員に対しては、言葉遣いなどについて日頃から指導を行っている。